

トカラ列島口之島・中之島・悪石島・宝島の昆虫（2019）

金井 賢一¹・守山 泰司²・中峯 敦子³

Insects Collected on Kuchinoshima Island, Nakanoshima Island, Akusekijima Island and Takarajima Island (Tokara Islands) in 2019

Kenichi KANAI¹, Taiji MORIYAMA² and Atsuko NAKAMINE³

はじめに

筆者らは継続してトカラ列島の昆虫を調査しており、その成果は鹿児島県立博物館研究報告に報告してきた（金井・守山, 2018a; 金井・守山・小宮, 2019）。中でもチョウに注目し、その時点でのまとめを行った（金井・守山, 2018b）。その際、調査不足の地域あるいは季節が判明したので、その不足を補うために調査を継続している。2019年は2月中之島（守山）、3月悪石島（金井）、5月宝島（金井）、8月口之島（守山）、10月中之島（中峯）と、5回の調査を行うことができた。その結果を報告する。

また、今年から甲虫類や水生昆虫にも注目し、記録を継続していく予定である。今後トカラ列島のもつ他地域との関係を、新たな視点からアプローチできるようになればと思う。

学名については、バッタ目は町田・日本直翅類学会（2016）、カメムシ目は川合・谷田（2018）及び石川ら（2012）、コウチュウ目は鈴木（2019）、水生カメムシ及びコウチュウ目は中島ら（2020）、チョウ目チョウ類は猪又ら（2010-2013）に従った。

十島村には、調査にあたり昆虫採取・捕獲の許可をいただいた。甲虫は高井泰氏と同氏を通じて初宿成彦氏、保科英人氏に同定していただいた。また、訪花植物は、久保紘史郎氏（鹿児島県立博物館学芸主事）に同定していただいた。お礼申し上げます。

なお、採集年はすべて2019年なので省略した。

1 口之島

1 調査日程

8月30日：鹿児島発(23:00)フェリーとしま2

31日：口之島着(5:00)

集落～前之浜～前岳北西麓～集落～前之浜

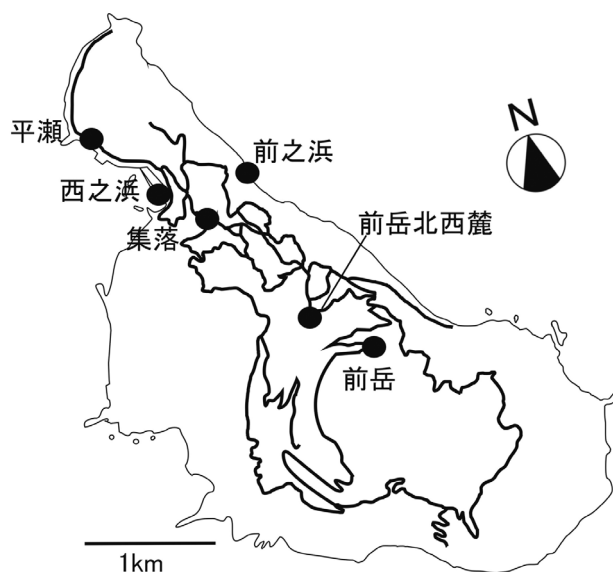


図1 口之島調査地

～前岳北西麓～平瀬～集落

9月1日：集落～前之浜～前岳北西麓～平瀬～集落口之島発(11:35)フェリーとしま2～鹿児島着(17:35)

調査は民宿の車を借りて行った。

2 調査者

守山泰司：鹿児島県立博物館外部協力者、鹿児島昆虫同好会会員

3 調査結果

キマダラセセリの第2化発生のピークと思われるこの時期に、調査を計画した。31日夜明け前、激しい雷雨の中、口之島に到着した。民宿で朝食をとっていると8時ごろには小雨になった。しかし、とてもネットが振れる状況ではなく、キマダラセセリの幼虫の探索を行った。12時を過ぎると日が射すようになり、隠れていた虫たちも活動をはじめ、格好の

1 鹿児島県立奄美高等学校 2 鹿児島昆虫同好会 3 鹿児島県立博物館

調査日和となった。1日も雲は多いが終始日差しがあり、まあまあの条件であった。

*は今回注意していたが記録できなかった種を示している。

チョウ目 (鱗翅目) LEPIDOPTERA

アゲハチョウ科 Papilionidae

- ・アオスジアゲハ
Graphium sarpedon (Linnaeus, 1758)
前之浜 (1♂ 31.VIII)
各所で見られたが、多くはなかった。
- ・アゲハ *Papilio xuthus* Linnaeus, 1767
前之浜 (1ex.目撃 31.VIII)
ほかには見ていない。
- ・ナガサキアゲハ *Papilio memnon* Linnaeus, 1758
前之浜, 前岳北西麓で見られたが、少なかった。
- ・モンキアゲハ *Papilio helenus* Linnaeus, 1758
各所で見られたが、多くはなかった。
- ・クロアゲハ *Papilio protenor* Cramer, [1775]
前岳北西麓 (1♀目撃 31.VIII)
ほかには見ていない。
- ・カラスアゲハ
Papilio dehaanii tokaraensis Fujioka, 1975
前之浜, 前岳北西麓で見られたが、少なかった。

シロチョウ科 Pieridae

- * ツマベニチョウ
Hebomoia glaucippe liukiensis Fruhstorfer, 1898
見かけなかった。集落内に少なくはない食樹ギョボクを丹念に探したが、幼生期も、発生した痕跡も確認できなかった。ギョボクの大木の前にある住宅の方によれば、「ここ数年は、見かけない。」とのことであった。屋久島, 中之島など近隣の定着地から飛来し、一時的に発生する迷蝶なのであろう。

シジミチョウ科 Lycaenidae

- ・ヤマトシジミ *Zizeeria maha* (Kollar, [1844])
集落 (1♀ 1.IX)
各所で見られたが、多くはなかった。
- ・アマミウラナミシジミ
Nacaduba kurava (Moore, [1858])
今回最も多かったチョウは本種で、各所で見られた。
- ・クロマダラソテツシジミ
Chilades pandava (Horsfield, [1829])

- ソテツの周りで見られたが、多くはなかった。
- * ヒメシルビアシジミ *Zizina otis* (Fabricius, 1787)
見かけなかった。食草となるヤハズソウ, ハイメドハギもほとんど見かけなかった。
- * ウラナミシジミ *Lampides boeticus* (Linnaeus, 1767)
- * オジロシジミ *Euchrysops cnejus* (Fabricius, 1798)
平瀬の海岸には両種の食草となるノアズキの群落があり、丹念に探したが成虫・幼生期ともに見つけられなかった。

タテハチョウ科 Nymphalidae

- ・ヒメアカタテハ *Vanessa cardui* (Linnaeus, 1758)
シロノセンダングサを訪花するものをみかけた。
- ・アカタテハ *Vanessa indica* (Herbst, 1794)
シロノセンダングサを訪花するものをみかけたが、前種より少なかった。
- ・ルリタテハ *Kaniska canace* (Linnaeus, 1763)
前之浜で見かけたが、少なかった。
- ・リュウキュウムラサキ
Hypolimnas bolina (Linnaeus, 1758)
前之浜 (3♂2♀ 31.VIII) (1♀ 1. IX), 前岳北西麓 (1♀, 1♂目撃 1. IX)
迷蝶。メスは4頭とも採卵を試みたが、大陸系の1頭のみ産卵した。フィリピン型♂と交配していたのであろうか、F1の斑紋は両者の中間的なものであった。
- ・ツマグロヒョウモン
Argyreus hyperbius (Linnaeus, 1763)
各所で見られたが、少なかった。
- ・ウスイロコノマチョウ
Melanitis leda (Linnaeus, 1758)
前之浜 (1♂ 31.VIII)
ほかには見ていない。
- ・ウスコモンマダラ
Tirumala limniace (Cramer, [1775])
平瀬 (1♀ 31.VIII)
口之島初記録, 迷蝶。シロノセンダングサ群落で採集した。
- ・リュウキュウアサギマダラ
Ideopsis similis (Linnaeus, 1758)
前之浜 (1♂ 31.VIII)
前之浜でほかに数頭目撃している。
- ・カバマダラ *Danaus chrysippus* (Linnaeus, 1758)
平瀬 (1♀目撃 1.IX)
シロノセンダングサ群落で目撃した。付近に食草はなく、ほかには見ていない。

* タテハモドキ *Junonia almana* (Linnaeus, 1758)

注意していたが見られなかった。近年、トカラ列島では本種の記録はほとんどない。食草として、イワダレソウが中之島、平島、諏訪瀬島、小宝島、宝島で、オギノツメが中之島で記録されているが、ともに口之島の記録はない。本種の記録はあることから調査不足の可能性が高いが、現在稲作は行われなくなっており、オギノツメの生育に適した環境はなくなっている。

セセリチョウ科 *Hesperiidae*

・キマダラセセリ *Potanthus flavus* (Murray, 1875)

前之浜 (3♂2♀ 31.VIII) (1♂ 1.IX), 前岳北西麓 (1♂1♀ 31.VIII) (1♂1♀ 1.IX)
シロノセンダングサ, ニシキハギを訪花していた。ススキにはそれらしい造巣痕がいくつか見られたが、幼生期は確認できなかった。

・チャバネセセリ *Pelopidas mathias* (Fabricius, 1798)

前之浜 (5♂ 31.VIII), 前岳北西麓 (1♂ 31.VIII)
シロノセンダングサを訪花していたが、次種より少なかった。

・イチモンジセセリ

Parnara guttata (Bremer et Grey, 1852)

前之浜 (7♂ 31.VIII) (3♂目撃 1.IX), 前岳北西麓 (3♂1♀ 31.VIII)
シロノセンダングサを訪花していた。

II 中之島

(2月)

1 調査日程

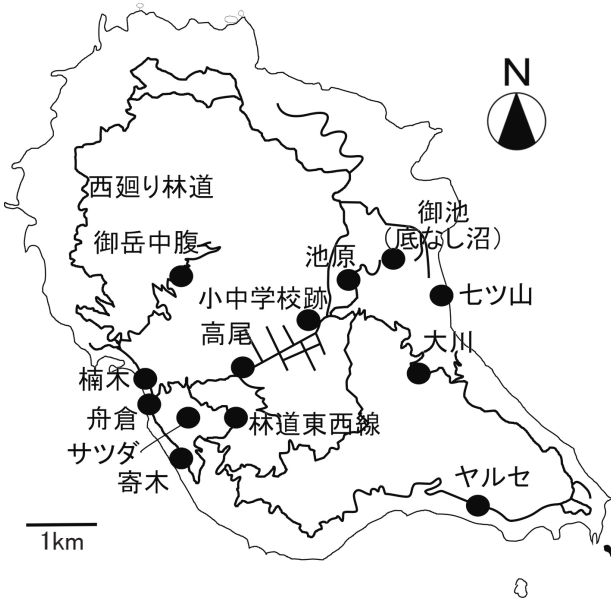


図2 中之島調査地

2月 1日 鹿児島発(23:00)フェリーとしま2

2日: 中之島着(6:20)

舟倉~ヤルセ~七ツ山~御池~御岳南麓~楠木~舟倉

3日: 舟倉~サツダ~寄木~舟倉

中之島発(11:20)フェリーとしま2~鹿児島着(18:20)

調査は民宿の車を借りて行った。

2 調査者

守山泰司: 鹿児島県立博物館外部協力者, 鹿児島昆虫同好会会員

3 調査結果

2日早朝に中之島に到着したときは曇天で肌寒かったが10時前には日が射し始め, 長袖シャツ1枚でも汗ばむ陽気となるにつれ, 虫たちの動きも活発になってきた。今回の調査の目的はリュウキュウアサギマダラの越冬確認で, 越冬集団の未確認情報の多いヤルセ集落跡を中心に調査を行った。ヤルセ集落跡とその南側には鬱蒼とした樹林が広がっていた。その中にはせせらぎもあり, 気根を垂らしたガジュマルの大木が少ないことは確認済みであった。ところが2018年の度重なる大型台風接近により景色は一変, ガジュマルの根際まで日が差し込むようになり, 同種の越冬には良好な環境でなくなっていた。3日は朝から雲が低く垂れ込み日差しがなく, 風も強く肌寒く, 活動する虫の姿は見られなかった。

*は今回注意していたが記録できなかった種を示している。

チョウ目(鱗翅目) LEPIDOPTERA

シロチョウ科 *Pieridae*

・ツマベニチョウ

Hebomoia glaucippe liukiensis Fruhstorfer, 1898

ヤルセ(終齢幼虫2ex.: ギョボク 2.II)

ヤルセの林縁のギョボクには, 青々とした葉が茂っている株が少なかった。幼虫を持ち帰ったところ, それぞれ2月6・7日に蛹化し, 3月上旬に2♂が羽化した(図2, 3)。

シジミチョウ科 *Lycaenidae*

・ヤマトシジミ *Zizeeria maha* (Kollar, [1844])

ヤルセ(6♂1♀ 2.II)

カタバミ群落周辺で見られ, 日が射すと活発に活動していた。

・アマミウラナミシジミ

Nacaduba kurava (Moore, [1858])



図3 林縁のギョボク

ヤルセ (3♂1♀ 2.II)
食樹のある林縁にあったツルソバを訪花していた。

タテハチョウ科 *Nymphalidae*

- ・アカタテハ *Vanessa indica* (Herbst, 1794)
ヤルセ (1ex.目撃 2.II)
ほかには見かけなかった。
- ・ルリタテハ *Kaniska canace* (Linnaeus, 1763)
ヤルセ (1ex.目撃 2.II)
ほかには見かけなかった。
- ・イシガケチョウ *Cyrestis thyodamas* Doyere, [1840]
ヤルセ (1ex.目撃 2.II)
ほかには見かけなかった。
- ・アサギマダラ *Parantica sita* (Kollar, [1844])
多くはなかったが、各所で見られた。
- *リュウキュウアサギマダラ
Ideopsis similis (Linnaeus, 1758)

越冬地になっていると思われたヤルセは、前述のように環境が変化しており、本種の姿もなかった。また、主要な食草になっていると思われるツルモウリソバは少なくなかったが、幼生期、食痕なども全く確認できなかった。このほか、夏～秋期には、多くの本種成虫を見かけ、幼生期も確認している七ツ山、御池から池原、御岳西麓などでも本種成虫は見られなかった。

(10月)

1 調査日程

- 10月21日 鹿児島発 (23:00) フェリーとしま2
22日：中之島着 (6:20)
舟倉～御池～池原～高尾～小中学校～サツダ～小中学校跡～楠木～舟倉
23日：船倉～中之島港
中之島発 (11:20) フェリーとしま2～鹿児島



図4 ツマベニチョウ終齢幼虫

島着 (18:20)
調査は民宿の車を借りて行った。

2 調査者

中峯敦子：鹿児島県立博物館学芸主事

3 調査結果

主に水生昆虫の採集を目的に2日間の調査を行った。2日間の天候は、22日、6時30分、気温20.0℃。風が強く、曇天であった。午前中いっぱい日は射さず、小雨がぱらつくこともあり、飛翔する昆虫の姿は少なかった。13時、気温は25.5℃。風が弱まり、14時ごろには日が射すようになった。このころから日没近くまでチョウ類の飛翔、吸蜜する姿が見られた。翌日23日は、8時の気温20.0℃。朝から土砂降りの雨で乗船時間まで晴れることはなかった。雨の中、港までの道すがら、でき得る採集を行った。記録は下記のとおりである。水生昆虫類の採集は、網目1mm×1mmの水網を用い、定性調査を行った。またチョウ類の採集及び目撃も記録したので、合わせて報告する。今回の調査で、3目11科16属17種の昆虫を目撃・採集した。同定はすべて中峯が行った。

チョウ目 (鱗翅目) LEPIDOPTERA

シジミチョウ科 *Lycaenidae*

- ・ヤマトシジミ *Zizeeria maha* (Kollar, [1844])
高尾 (4♂ 22.X)
- ・ルリウラナシジミ *Jamides bochus* (Stoll, 1782)
船倉 (卵. 数不明：ハマアズキ 23.X)

23日、雨の中、港へ向かう途中、ハマアズキが繁茂する茂みがあった。近づくと、本種が2～3頭まとわりつくように飛翔していた。採集を試みたが、雨が激しくなり、成虫を採るのをあきらめ、卵のついたハマアズキのつぼみ、花、若い莢を採集した。その後は、インゲンマメで飼育し、11月20日から22日に3♂1♀が羽化した。



図5 吸蜜に来たアオタテハモドキ♂



図6 ヒメセスジアメンボがいた池

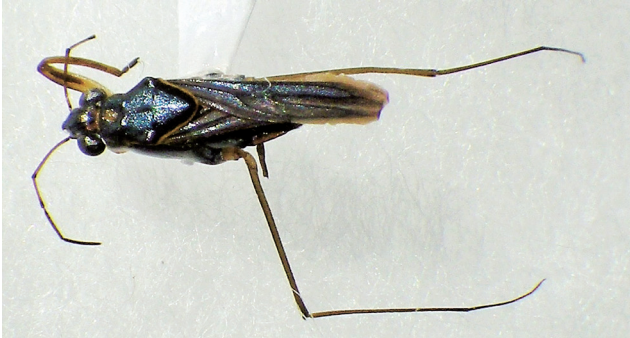


図7 ヒメセスジアメンボ（長翅型）



図8 ヒメセスジアメンボ（短翅型）

2019年秋、本種は、鹿児島県南部で広く二次発生した。目撃した個体も同時期に飛来し、発生したものとする。

タテハチョウ科 **Nymphalidae**

- ・ツマグロヒョウモン
Argyreus hyperbius (Linnaeus, 1763)
各所で見られた。
- ・アオタテハモドキ
Junonia orithya (Linnaeus, 1758).
小中学校跡（2♂目撃 23.X）（図5）

セセリチョウ科 **Hesperiidae**

- ・イチモンジセセリ
Parnara guttata (Bremer et Grey, 1852)
高尾（1♂ 22.X）

カメムシ目（半翅目） **HEMIPTERA**

アメンボ科 **Gerridae**

- ・ヒメセスジアメンボ
Neogerris parvulus (Stal,[1860])
小中学校跡（6exs. 22.X）（図6, 7, 8）
中島ら（2020）によると、本種は東南アジアからオセアニアに広く分布するが、南西諸島では奄美大島～沖縄島の間に限られ、宮古・八重山諸島からは記録がない、とされている。今回の記録は北

限が奄美大島よりも北にあったということを示すものである。

イトアメンボ科 **Hydrometridae**

- ・オキナワイトアメンボ
Hydrometra okinawana (Drake,1951)
サツダ（2exs. 22.X）船倉（1ex. 23.X）

マツモムシ科 **Notonectidae**

- ・ヒメコマツモムシ
Anisops tahitiensis(Lundblad,1934)
サツダ（6exs. 22.X）

タイコウチ科 **Nepidae**

- ・タイコウチ *Laccotrephes japonensis* (Scott,1874)
サツダ（1♂ 22.X）
体長27mm（呼吸管を除く）。小型の個体だった。

コウチュウ目（鞘翅目） **COLEOPTERA**

コガシラミズムシ科 **Halipilidae**

- ・シナコガシラミズムシ
Peltodytes sinensis (Hope,[1845])
御池（2exs. 22.X）

コツブゲンゴロウ科 **Noteridae**

- ・コツブゲンゴロウ *Noterus japonicus*(Sharp, 1873)

御池 (9exs. 22.X)

ゲンゴロウ科 **Dytiscidae**

- ・コケシゲンゴロウ
Hyphydrus pulchellus (Clark, 1863)
御池 (1ex. 22.X)
- ・オオマルケシゲンゴロウ
Hydrovatus bonvouloiri (Sharp, 1882)
御池 (2exs. 22.X)
- ・キベリクロヒメゲンゴロウ
Ilybius apicalis (Sharp, 1882)
御池 (3exs. 22.X)
- ・ヒメゲンゴロウ *Rhantus suturalis* (Macleay, [1825])
小中学校跡 (5exs. 22.X)
- ・トビイロゲンゴロウ
Cybister sugillatus (Erichson, 1834)
御池 (1♂ 22.X) 小中学校跡 (1♂ 22.X)

ガムシ科 **Hydrophilidae**

- ・ルイスヒラタガムシ
Helochaeres pallens (MacLeay, [1825])
船倉 (1ex. 23.X)

III 悪石島

1 調査日程

3月18日 鹿児島発 (23:00) フェリーとしま2

19日: 悪石島着 (11:30)

集落~池~御岳~根神山~集落

20日: 悪石島発 (7:15) フェリーとしま2 ~ 鹿

児島着 (18:15)

調査は民宿の車を借りて行った。

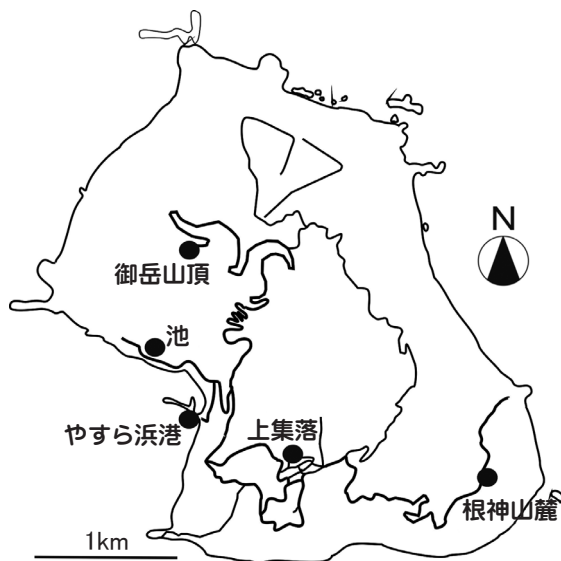


図9 悪石島調査地

2 調査者

金井賢一: 鹿児島県立博物館学芸主事 (調査当時)

3 調査結果

2018年に訪問した際、春先にアクセキミナミボタル *Drilaster akusekianus* Nakane, 1983 (ジョウカイボン科ミナミボタル亜科) が得られると、民宿西荘の方に聞いた。信州大学からと思われる研究者が2017年に訪問し、住民に紹介してくれたとのことである。初めて採集された個体は、11月に得られたものなので、成虫越冬なのかもしれない。動き出すには少し早いかもしれないが、悪石島でしか見つからない本種を採集し、近年中に開催予定のトカラ列島に関する企画展にて展示できれば、という狙いであった。

しかし天候に恵まれず、波も高かったため、悪石島への到着は、2時間以上遅れた。活動時間中も14時30分頃まで曇天で、動いている昆虫が非常に少なかった。

今回の採集個体のうち、甲虫目は高井泰氏 (鹿児島昆虫同好会, 岐阜県在住) に送付し、同定していただいた。

バッタ目 (直翅目) ORTHOPTERA

バッタ科 **Acrididae**

- ・タイワンハネナガイナゴ

Oxya chinensis (Thunberg, 1815)

根神山 (1ex. 19.III)

コウチュウ目 (鞘翅目) COLEOPTERA

ゲンゴロウ科 **Dytiscidae**

- ・チビゲンゴロウ

Hydroglyphus japonicus (Sharp, 1873)

池 (2exs. 19.III)

ジョウカイボン科 **Cantharidae**

- ・アマミクビボソジョウカイ

Asiopodabrus (Asiopodabrus) amamiensis amamiensis Takahashi, 2012

上集落 (4exs. 19.III)

ハナノミダマシ科 **Scaptiidae**

- ・コフナガタハナノミ *Anaspis funagata* Kono, 1928
上集落 (6exs. 19.III)

大阪自然史博物館の初宿成彦氏によれば、近年の未記載種の可能性もあるとのことであるが、これ以上は不明である。

チョウ目 (鱗翅目) LEPIDOPTERA

タテハチョウ科 *Nymphalidae*

- ・アサギマダラ *Parantica sita* (Kollar, [1844])

池 (1♂目撃. 19.III)

オキナワバライチゴ *Rubus okinawensis* にて吸蜜している1♂を目撃・撮影した。

- ・リュウキュウアサギマダラ

Ideopsis similis (Linnaeus, 1758)

池 (1卵. 19.III) 図10



図10 リュウキュウアサギマダラの卵

4・5月の調査では、中之島でもリュウキュウアサギマダラの幼虫や卵が見つかるが、この場合、ウスバキトンボなどを南方から運んでくる風に乗って、成虫が飛来した可能性を否定できない。しかし、3月中旬に卵があるということは、この島で越冬した個体が産卵した可能性が非常に高いであろう。桐野 (1993) によれば、1992年にも3月17日～20日の時期に成虫 (2♂1♀) と幼虫2頭が記録されている。途中の消滅については確認できないが、2019年も悪石島において越冬していると思われる。

セセリチョウ科 *Hesperiidae*

- ・イチモンジセセリ

Parnara guttata (Bremer et Grey, 1852)

根神山 (1ex. 19.III)

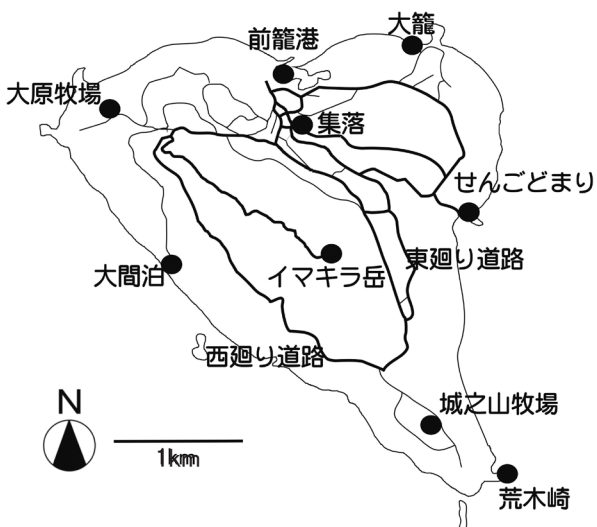


図11 宝島調査地

この季節に成虫がいるのであれば、悪石島島内で発生した可能性が非常に高いが、そうであれば幼虫は、何を食べているのだろうか。今後、各島でイチモンジセセリの幼虫が食べているイネ科植物を探す必要性がある。

IV 宝島

1 調査日程

5月 1日 奄美大島発 (2:00)フェリーとしま2～宝島着 (5:00)

集落～前籠港～大籠～せんごどまり～集落～大原牧場～大間泊まり～西廻り道路～荒木崎～東廻り道路～集落

2日：集落～東廻り道路～荒木崎～イマキラ岳～大原牧場～集落～前籠港

宝島発 (11:00)フェリーとしま2～奄美大島着 (15:20)

調査は110ccのバイクを航送して行った。

2 調査者

金井賢一：鹿児島県立博物館館外協力者、鹿児島昆虫同好会

3 調査結果

天気に恵まれず思うような採集が出来なかった。5月1日は、土砂降りの中、民宿に到着した。しかし、明るくなくても降ったりやんだりの繰り返しであった。5月2日は、ようやく雨が上がったが、大雨の影響かアサギマダラやウスバキトンボなど、特定の種のみ飛ぶのが観察された。

今回は西廻り道路の林道沿いの落ち葉を約1リットル持ち帰り、高井泰氏 (前述) に送付した。同氏は、ツルグレン装置で甲虫やその他の土壌生物を採取し、甲虫に関して同定された。その際、保科英人氏及び初宿成彦氏にも同定を依頼し、標本は、それぞれが保管している。その結果も合わせて報告する。

トンボ目 (蜻蛉目) ODONATA

トンボ科 *Libellulidae*

- ・ウスバキトンボ

Pantala flavescens (Fabricius, 1798)

各地に多く、5月1日、2日ともに100頭前後見られた。

コウチュウ目 (鞘翅目) COLEOPTERA

オサムシ科 *Carabidae*

- ・キボシアトキリゴミムシ

Anomotarus (Anomotarus) stigmula (Chaudoir, 1852)

西廻り道路林道 (1♀ 2.V)

ガムシ科 **Hydrophilidae**

- ・ツヤマンゲツガムシ

Psalitrus masatakai Hoshina, 2007

西廻り道路林道 (5exs. 2.V)

本種, 次種ともこれまで奄美諸島が分布域の北限であったので, 今回の記録は北限の更新となる。保科英人博士同定。

- ・タイワンマンゲツガムシ

Psalitrus sauteri d'Orchymont, 1929

西廻り道路林道 (3exs. 2.V)

保科英人博士同定。

エンマムシ科 **Histeridae**

- ・アカツブエンマムシ *Bacanius niponicus* Lewis, 1879

西廻り道路林道 (8exs. 2.V)

ハネカクシ科 **Staphylinidae**

- ・ツヤチビハネカクシ属の種 *Edaphus* spp.

西廻り道路林道 (3exs. 2.V)

体長1mmほどの小さなハネカクシで, 今回採集されたものには体が短太な1頭と, 細長い2頭が含まれており, 複数種が含まれている可能性がある。トカラ列島からは広域分布する *japonicus* とトカラからのみ知られる *tokaraensis* の2種が知られているが同定には, 雄交尾器を調べる必要があり, 小さいこともあって難しいので, ひとまず属までの同定に止める。

ジョウカイモドキ科 **Melyridae**

- ・ムネアカヒメジョウカイモドキ

Attalus (Attalus) chujoanus Wittmer, 1982

大原牧場 (6exs. 2.V), 荒木崎 (1ex. 2.V)

ハナノミ科 **Mordellidae**

- ・エダシゲクロヒメハナノミ

Mordellistena (Mordellistena) edashigei Chûjô, 1956

大原牧場 (1ex. 2.V), 荒木崎 (3exs. 2.V)

初宿成彦氏同定。

カミキリモドキ科 **Oedemeridae**

- ・フタイロカミキリモドキ 琉球亜種

Oedemera (Oedemera) sexualis ryukyuanus Švihla, 1999

大原牧場 (1♂ 2.V), 荒木崎 (1♀ 2.V)

ゾウムシ科 **Curculionidae**

- ・トカラチビヒョウタンゾウムシ

Myosides tokarensis Morimoto & Lee, 1993

西廻り道路林道 (9exs. 2.V)

チョウ目 (鱗翅目) LEPIDOPTERA

アゲハチョウ科 **Papilionidae**

- ・モンキアゲハ *Papilio helenus* Linnaeus, 1758

各地に多く, 5月1日, 2日ともに30頭前後見られた。

シロチョウ科 **Pieridae**

- ・キチョウ sp. *Eurema* sp.

イマキラ岳 (1ex. 目撃 2.V)

タテハチョウ科 **Nymphalidae**

- ・アカタテハ *Vanessa indica* (Herbst, 1794)

イマキラ岳 (1ex. 目撃 2.V)

- ・ツマグロヒョウモン

Argyreus hyperbius (Linnaeus, 1763)

大籠 (1♂目撃 1.V), 集落 (1♀目撃 2.V)

- ・ルリタテハ *Kaniska canace* (Linnaeus, 1763)

各地に多く, 5月2日には50頭前後見られた。

- ・イシガケチョウ

Cyrestis thyodamas Doyere, [1840]

大原牧場 (1ex. 目撃 2.II)

ほかには見かけなかった。

- ・アサギマダラ *Parantica sita* (Kollar, [1844])

各地に多く, 5月1日, 2日ともに100頭前後見られた。

終わりに

2019年の採集では

- ・土壌性の甲虫を調査することにより, 今までにない視点から, 分布に関するアプローチができた。

- ・水生昆虫に注目した調査を行った。

という2点が例年と異なる。

我が国に産するキマダラセセリには, ほとんど地理的変異がないとされるが, 藤岡 (1975) はトカラ (口之島・中之島) の本種は他の地域のものと同定できる可能性を指摘している。しかしながら, それから半世紀近く経つものの, それを検証した報告は見当たらない。おそらくトカラ列島産キマダラセセリの十分な数の標本を確保することが困難であったためであろう。今年度, 口之島産がある程度確保できた。これにより, 他の地域 (とくに屋久島, 種子

島, 南九州など)との斑紋の違いがないか, 検討する段階に入れる。また、周年経過(第3化の発生もあるのか), 記録の無い諏訪之瀬島や悪石島にいないのかなど、今後も調査が必要である。

このほかチョウに関する今後のテーマとして, テングチョウの新分布地発見および亜種区分の確定, ヒメシルビアシジミの分布変化, タイワンツバメシジミの分布地拡大・縮小の把握, リュウキュウアサギマダラの越冬確認, タテハモドキのトカラ列島での衰退, クロコノマチョウとウスイロコノマチョウの動向などを考えている。

トカラ列島は, 亜熱帯から温帯への移行帯にあたり, 貴重な生物の分布を示す地域である。今回の調査でも, 新分布記録が多数得られた。これはまだ様々な見地から調査が必要だということを示しており, 今後, ますます新しい発見が期待される。しかし, この地域が, 昆虫保護条例によって保護されていること, あるいは定期便の運行数が少ないことなどにより, アマチュアや研究者が調査しにくい地域である。そこでトカラ列島での定期的な調査は, 今後も鹿児島県立博物館をはじめとする県内外の調査者が連携を取りながら継続していく必要がある。

引用文献

藤岡知夫 (1975) 日本蝶類大図鑑. 312 + P1137pp. 講

談社, 東京.

石川忠・高井幹夫・安永智秀 (2012) 日本原色カメムシ図鑑－陸生カメムシ類－第3巻. 576pp. 全国農村教育協会, 東京.

猪又敏男・植村好延・矢後勝也・神保宇嗣・上田恭一郎 (2010-2013) 日本産蝶類和名学名便覧. <http://binran.lepimages.jp/> (2020年1月4日閲覧)

金井賢一・守山泰司 (2018a) トカラ列島中之島・小宝島の昆虫. 鹿児島県立博物館研究報告 (37): 15-18.

金井賢一・守山泰司 (2018b) トカラ列島のチョウ類. 鹿児島県立博物館研究報告 (37): 19-30.

金井賢一・守山泰司・小宮裕生 (2019) トカラ列島口之島・悪石島の昆虫 (2018年) 鹿児島県立博物館研究報告 (38): 1-10.

桐野敦子 (1993) チョウの採集・観察記録 (1992年悪石島春旅行の報告) *Leben*, 23 : 5-8.

町田龍一郎・日本直翅類学会 (2016) 日本産直翅類標準図鑑. 384pp. 学研プラス, 東京.

中島淳・林成多・石田和男・北野忠・吉富博之 (2020) 日本の水生昆虫. 351pp. 文一総合出版, 東京.

鈴木茂 (2019) 日本列島の甲虫全種目録. <https://japanesebeetles.jimdo.com/> (2020年1月4日閲覧)

